

「鉄腕アトム」の声優・清水マリさんのインタビューがきっかけで、ご子息の演劇脚本家山内大典氏が主宰する劇団「花鳥風月」の演劇を見る機会を得ました。8月21日、「うらわ宿」編集員が揃って池袋西口小劇場に出かけ、「零のナンバー」を観てきました。社会派劇団らしい内容の演劇で、マイナンバー制度の「是非」をストレートに投げかける意欲作でした。観てきた感想を紹介します。

*休みなしの1時間50分のお芝居、少し疲れ気味でしたので眠気に襲われ失礼をするのではと、心配をしました。そんな心配は全く無用でした。目の前の現実的な問題を素晴らしい話(構成)と皆さんのリアルな演技に完全に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。マイナンバー法の問題を提起しながら、国家と国民、経営責任と労働者、民主主義などなど、芝居のベースに演出者の考えが表明されていると感じました。社会的な問題をストレートに扱ったこういう芝居を観るのは初めてでした。シナリオ作成が大変だと思いますが今後のご活躍を期待します。(針谷努)

*マイナンバー制を間近にして観たこの演劇は最近の個人情報流し事件を考え合わせるとリアリティーがあり、実施された時の不安と恐怖を感じる。この制度は運用する側からは大変便利で都合の良いものなのであろうが、国家的管理をされ、悪意ある他者からの格好の標的になり、メリットよりもデメリットの方が多そう。 「零のナンバー」を観た翌日のTVニュースで10月から個人に通知が届くという話をしていた。余りにもものよさに驚いてしまった。「さあこれから君たちの本番が始まるよ」と。あの舞台が私たちの生活の場になってしまふのだろうか。私たちはどうしたらいいのだろうか。否応なくこのシステムに組み込まれなくてはならないのか。若い演者たちの迫真迫るセリフが私の耳奥で反響している。(石川清隆)



うらわ宿文芸

川柳
委員長を集団自衛で採決し
議事録に無い採決で軍動
活きてるぞ戦後レジューム
安保デモ
(東口・さぶ老)



マイナンバー
ビジネスチャンスが来るゾ!
コンピュターウイルス
マジック
これ、違憲の安保関連法でしょ
これを、「丁寧」に説明すると
ほら、合憲になっちゃうんです
これって、不思議でしょ!
サギー晋三
(東口・さぶ老)

耳より情報

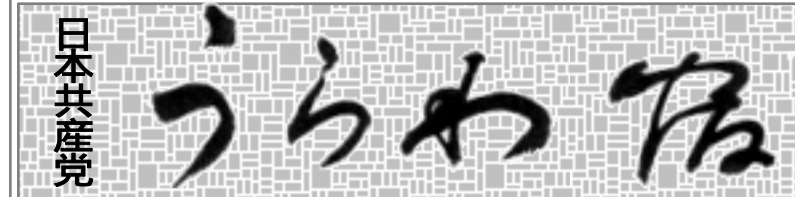
10月18日(日) 13:15~16:15
場所: コラボ(黒澤ビル)
浦和区革新懇学習会&第6回総会
講演「安法制の検証と今後の課題」
話す人: 鈴木幸子弁護士(浦和法律事務所)

11月5日(木) 19:00~
場所: 大宮ソニックシティ
参院選勝利をめざす大演説会
話す人: 市田忠義副委員長

10月の駅頭宣伝
16日(金) 北浦和駅東口 7:00~8:00
21日(水) 浦和駅西口 7:00~8:00
23日(金) 北浦和駅東口 7:00~8:00
26日(月) 浦和駅東口 7:00~8:00
30日(金) 北浦和駅東口 7:00~8:00

編集後記

久保田万太郎の名句に「湯豆腐やいのちの果てのつすあかり」という私の愛語がある。この句は万太郎が愛人を偲んでの句とも言われるが、真偽のほどは定かでない。私も少し寒くなってきたので万太郎にあやかっつて昔の初恋のひとを思い出して今夜は湯豆腐にお酒とでも思ったが、「億総活躍社会」という虚言がまたぞろ出てきて戦前生まれの私にとつては「国家総動員法」が思い出されてすつかり気持ちが悪くてしまった。このところ風邪が長引いているので湯豆腐で温めてたたいのエネルギーを蓄えなければと気をとり直した。逢ふたびに風邪引いている男かな(赤黄男)とならないように。(野)



日本共産党浦和区後援会ニュース
2015年10月号・52
浦和区北浦和3-14-16
TEL/FAX 048-833-4515
***** (部内資料) *****

全国各地で戦争法案反対のとりくみが行われる中、浦和区でも9月12日に県庁前で「戦争する国づくりに反対する9・12浦和区集会」を行いました。主催者・ゲストのスピーチと、参加者の感想をまとめて掲載します。

開会のスピーチ
実行委員長 鈴木幸子弁護士
今、毎日のように自衛隊はすでに安保法案を前提にした予行演習

しているとの報道がされています。またアフリカのジブチは、事実上自衛隊PKO活動の兵站地として使われていると言われています。こうして既成事実が作られつつあるのです。そして今、18日も強行採決をしようとしています。憲法違反であり、立憲主義にも反している安保法案を許すわけにはいきません。今全国津々浦々でさまざまな職業の人達、学生、ママさんなどが立ち上がっています。この浦和の地から、強行採決するの大きな声を出して驚かせましょう。

くの方を招いて、沢山の方に講演を聞いていただいています。これからは本会長が石河が来るべきところですが、女性の貧困をテーマにした雨宮処凛さんの講演会に出ています。貧困と徴兵制は関係しています。安倍首相は、強行採決してもしばらく経てば忘れるだろうと完全に国民を馬鹿にしています。反対の声を上げ続けて参りましょう。今日は宜しくお願いします。

主催者スピーチ
呼びかけ人
声優・演劇家
清水マリさん
こういう会にはじめて出席しました。つい先ほどまで埼玉会館で、子どもたちのきれいなコーラスを聞いていました。そこで思いました。こういう子たちをぜったい戦場の送ってはいけません。そのためにすべてのお母さん、そしておばあちゃんも頑張らなくてはいけないと思います。もちろんお父さんもおじいちゃんもです。皆さんも是非協力して

戦争する国づくり反対 9・12浦和区集会



主催者スピーチ
副実行委員長
あけび書房代表
久保則之さん

浦和区には昨年3月から住んでいます。私は東京で出版社を営んでいますが、二つお話ししたい。一つは権力者は常に、メディアと教育を支配しようとする事です。安倍政権はまさにそれをやっています。NHKがいい例です。メディアを正しい方向にするためには、私たち一人ひとりが敏感に反応しなければなりません。

下さい。今日はいい機会をつくっていただき有難うございました。頑張りましょう。

スピーチ
子育てママ 伊藤麗華さん
私は普通の二児の母親です。はじめてのスピーチで緊張しています。私は、今戦争法案を進める政府が怖い。それを支持する人が怖い。反対の声をあげるとそれを妨害する人が怖い。戦争に近付きたくありません。安倍さんは、どうして核にたよったり、ア

ゲストスピーチ
前埼玉弁護士会会長
大倉浩さん

埼玉弁護士会としては今回の立憲主義を無視したやり方には、弁護士会の社会的使命として反対表明をしています。昨年7月になかにし礼さん、12月に山田洋一さん、5月に高遠菜穂子さんなど多

メリカを頼りにする必要があるのでしょうか。自給率を高めたり、自然エネルギーを進めたり、安保法案より先にもっとやることがあるのではないのでしょうか。国家権力にだまされるのも嫌ですし、だまされたふりをするのもいやです。次の選挙でこうした政治家を落としましょう。私の声が全国に届くことを願っています。

閉会のあいさつ

副実行委員長

医師 肥田泰さん

安倍首相は何故外国に行くのでしょうか。これから、海外にも派兵することができるようになります。ついては、原発を買って下さい、武器も買って下さい。それを言いに行くのです。軍需産業は最も簡単にもうける方法なんです。だから大企業は、軍事産業に手を付けたいのです。自由に大企業が武器を外国に輸出することができ

る。それを狙っているのです。そういうことを断じて許す事はできません。第二次世界大戦後、日本はポツダム宣言を受け入れ二度と戦争をしないと決意したのです。世界がこの法案を本来認めないはずなのです。しかし安倍首相は、国民に中国脅威論などの嘘をついて、この法案を通そうとしている。私たち国民側から、世界に向かって憲法を守ることを宣言していかねばなりません。廃案にするまで共に頑張りましょう。

参加者の感想

9月12日当日の参加者は250名にのぼり、浦和駅までのパレードも大きく成功しました。当日参加した方々から、日頃の思いも含めた皆さんの感想が寄せられました。

9月12日...違憲戦争法撤回を訴える浦和区集会の抗議パレードに参加した。ギター&アルペンホルンの演奏で全員で合唱後、県庁を出発...パレードと称した抗議デモ210余名は怒り心頭、激昂コールを叫びながら行軍!浦和駅西口までを頑張った。中仙道の交差点で川口の「ママの会」の一団と合流...健闘のエールを交換した。終了後私は74キロ健丈の身の現在、この平和活動に全エネルギーを注入し、新たに国民連合政府の実現を我が身に誓った。(領家:桑原崇寿)



私の兄は終戦の年に生まれて間もなく栄養失調で亡くなったそうです。国家が戦争を起こし、敵も味方も、最大の被害者は一般市民や子供たちです。世界でも唯一「武器を持たない、戦争しない」憲法を持っているこの国は、戦争できる国をめざすのではなく、この憲法の理念を世界に広げていく旗振り役になる、そんな国にしたいものです。(木崎:T・K)

今日3日は句会<新婦人小組>でした。「秋雨に試されるデモ民主主義」。本当に雨雨の終盤でした。「国会内に民主主義は無い、民主主義って何だ、国会の外の行動、これだ」と叫び続けるも憲法無視、民意無視の悪法は強引に通過。私のように居たたまれずにデモに参加し始めた人々。「連休過ぎれ

ばトーンダウン」の安倍の言葉に怒りは頂点に。5、6月の熱い最中から19日迄の行動で70歳を超えた私は20日は休養日に。20日早朝から行動を起こされた方々には本当に頭が下がりました。21日、22日は参加。この悔しさを忘れじと、19日をシルズを先頭に月定例に、と共産党提案の「国民連合政府」は希望そのもの。もう始めています、口コミで公明党、自民党には投票しないでね、と。民意反映しない小選挙区制の下、絶望し棄権している47%の半分の人に投票を促すこと。また、「18歳選挙権」も追い風になる、と。初めて投票する18歳に「戦争ノー」の国に戻す力になって貰いましょう。(元町:中澤洋子)

国民連合政府の提案は、これまで多くの人がこの悪法に反対してきた気持ち「国民の大義」に応えるものです。思想・信条、政党の枠を超えて、お年寄りから、ママさん、学生、若者、男女を問わず、9条を守り、多くの平和を願う気持ちを集める大切な提案です。今こそ民主主義の原点に戻り、国民多数の力で国民連合政府を実現してこの戦争法を廃止するため、北浦和でも地域署名やいろいろな行動を行っていききたいと思います。(北浦和:K・T)

国会の前であんなに沢山の老若男女が一生懸命叫んでいたけれど、中に声が届いていたのか。議事堂が白く浮かび上がり、冷たい権力の象徴のように思えた。強行採決されたけれど、あそこまで言って自分の気持ちをぶつけられたのでよかった。反対の強い気持ちで来年の参院選でアベ政権に大きな打撃を与えたい。(元町:N)

戦争法案を巡る闘い。浦和でも戦後最大の規模で取り組まれました。法案は「成立」しても、私たちの誰一人敗北感、挫折感がありません。次の段階での闘いがこれから始まると気持ちを新たにしていた中で発表された日本共産党の「国民連合政府」構想。これまでの闘いをさらに広げれば、構想の実現、戦争法廃止は可能です。アメリカ独立宣言やフランス革命に匹敵する歴史的壮挙が2~3年以内にこの日本でもと思うと胸が躍ります。(東岸町:市川隆夫)

憲法違反の「戦争法案(安保法案)」を多くの市民に知らせ、反対の世論を盛り上げようと、7月から毎週金曜日の昼休みに平和委員会の人たちと一緒に、浦和駅西口で宣伝署名行動を行なってきました。「ご苦労さま。頑張って」「戦争は絶対にだめ」など声をかけられたり、署名に列をなすほどの反応に私の方が驚き、励まされました。法案成立後も宣伝は続けます。共産党が提案した「国民連合政府」を実現し、必ず「戦争法」を廃止しましょう。(岸町:今井裕子)



景気の回復、中韓との関係改善、北方領土・拉致の解決、女性の活躍...3年たっても何ひとつ実現できなかった安倍政権。やったのは違憲の戦争法案、

国家機密法、原発再稼働、生涯派遣、マイナンバー...憲法・国民・民意の無視のオンパレード。これ以上続いたら日本は破滅。無能ででたらめな独裁政権には即刻退陣してもらわなければならない。(領家:倉田静也)

10月1日の朝、家に1本の電話がありました。「9.12集会」に小さなピラ一つ見て参加したKさんという人からで、その後、「9.26レッドアクション」のお誘いピラも入れてみたところ、「お友達二人誘って参加しました。とても良かったです。」と言ってくれて、「志位さんの国民連合政府の呼びかけ、とてもいいと思いました。これまでどうして共産党は一点共闘しないんだろうと思って見てました。来年の参議院選挙楽しみですね。」と言われたのです。戦争法は強行採決されたけれど、こうして今まで繋がりの全く無かった人がこんな話をしてくれているという所に、闘いが残してくれた財産。そして、新たなスタートがあるとつくづく感じた朝でした。(常盤:海野照美)

9月16日の安保法案参議員特別委員会のテレビ放映にくぎづけになってしまいました。ずっと見ている、いつ議案が提案され、採決されたのかさっぱりわかりませんでした。こんなやり方でしか通せない法案は国民のためになるとは思えません。主権者がないがしろにしてつくられた違憲の法律は廃止して欲しいです。(領家:E・H)

白糠を訪ねて

領家 野々垣務

白糠は下北半島の東通村の南端にある太平洋に面した漁村である。尻屋岬まで一望できる景色のいいところで近海ではイカ釣りなどが中心に漁場の豊かな海が広がっている。訪れた日は台風の影響を受けて激しい風雨に見舞われた。漁港にはイカ釣り舟が幾艘も出漁を待っているように静かに揺れて飢いでいた。限界集落の多い東通村の中でもこの白糠は海の恵みで比較的暮らしは安定しており戸数も人口も子どもの数も近年減少していかない漁業組合長から聞いた。四〇年程前には、この集落も東通原発の誘致を巡って揺れた。この豊かな海を汚されて漁が出来なくなることになった。機感を持つて最後まで闘った。今はその声を出す者はいなくなつたと組合長は語っていた。3.11福島原発での安全神話の崩壊を経験してかつて推進派で動いていた人も半ば諦めていると言った。東通原発は二〇〇四年に稼働したが今は停止したまま稼働の見通しはない。今や原

発ドリームも間の中をさまよっているようだ。かつて二〇近い集落ごとにあつた小・中学校もすべて廃校になつて一つの学校に統合された。白糠は子どもも多く廃校に反対したがその願いは叶えられなかった。どの集落の学校も荒れ果てたまま放置されている。この白糠集落には六つの神社が大漁祈願の奉納のために祭られている。習俗としての信仰がこの集落の共同体を支えている。また、六〇〇年の歴史を持つ東通村独特の伝承芸能である「能舞」が白糠の子どものちによつて引き継がれている。国の文化遺産にもなっている。夜、子どもと大人たちが四〇人程集集場に集まつて正月の奉納に向けて練習している。場面に立ち会うことができた。健気に練習している子どもたちを見て胸を熱くしたのであつた。原発政策によつてこの子どもたちにも犠牲を背負わせないと欲しいと強く願つた一夜であつた。

